

令和4年度第1回

幸手市総合教育会議議事録

招 集 期 日	令和4年11月14日(月)午前9時00分					
開 会 場 所	幸手市役所本庁舎 3階 第2委員会室					
開 会 の 日 時	令和4年11月14日(月)午前9時00分					
閉 会 の 日 時	令和4年11月14日(月)午前10時02分					
出席状況	職 名	氏 名	摘 要	職 名	氏 名	摘 要
	市 長	木村 純夫	出席	教育委員	高島 勝也	出席
	教 育 長	山西 実	出席	教育委員	藤沼 寛次	出席
	職務代理者	会田 研司	出席	教育委員	古沢 万友実	出席
	教育委員	岩崎 万紀子	出席			
傍聴人：0人				書記：大竹 孝典・河口 奈緒		
議事参与者	職 名	氏 名	職 名	氏 名		
	総合政策部長	落合 和典				
	教 育 部 長	小林 秀樹				
	政 策 課 長	中野 仁美				
	総 務 課 長	服部 道春				
	学校教育課長	堀越 成夫				
	社会教育課長	仙田 茂雄				
政策課主席主幹	松本 直樹					

議 事	顛 末
<p>開 会 午前9時00分</p> <p>あいさつ</p> <p>日程第1 協議調整事項 及び報告事項 協議調整事項第1号 幸手市の教育行政の諸 課題</p>	<p>教育部長 開会を宣する。</p> <p>市長 あいさつする。</p> <p>教育部長 市長から本市の教育行政に対する所感と現状の諸課題を述べていただき、その後、委員の皆様から御意見やお考えを伺いたい。</p> <p>市長 近年、「Society(ソサエティ)5.0」という言葉をよく耳にするが、ソサエティ5.0とは、「AI等の先端技術を高度化し、あらゆる産業や社会生活に取り入れることで、経済発展と社会的課題の解決を両立する新たな未来社会」と提唱されており、昨今の急激な技術革新の中にあっても、希望の持てる未来志向の社会や世代を越えて互いに尊重する社会を構築するとともに、日本の伝統文化を尊重しつつ、グローバルに生きる主体性のある人材の育成が求められている。</p> <p>私は、市長として幸手市の未来を担う子ども達が健やかに成長し、世界中どこでも飛躍できる人材になるためには、小・中学校における基礎教育の推進が特に重要であると考えている。そのためには、数値に表れるテストの結果だけではなく、子ども達が変化の激しい社会で活躍できる資質や能力をバランスよく育むことが大切であると考えている。</p> <p>特に、学校の教育整備は重要であり、現在、教育審議会にて「市内小中学校の今後の在り方」について御審議いただいているが、本年6月に実施した総合振興計画策定のための市民アンケートでも、「学校教育内容の充実」や、「学校教育環境の整備」に対し、関心が高い結果となっていた。</p> <p>子ども達は地域の宝であり、いきいきと子どもが輝く教育・子育て支援のまちを作ってまいりたい。</p> <p>先月末になるが、社会科副読本にも掲載のある埼玉県</p>

入間市と連携交流協定を締結した。これは、さまざまな交流を通じ、教育、地域振興、観光などの分野で連携を図り、両市の更なる発展を目指すものであり、今後は、子ども達の交流も検討し、広い視野と豊かな学びの場となるよう考えている。

また、「人生百年時代の健康・スポーツ・文化活動の推進」も私の公約の一つであり、人生百年時代を生きる市民のライフステージに応じた豊かな学びや健康づくりは、これからの社会を彩り豊かに元気よく、充実した人生を送るために不可欠な要素となると思う。その活動の拠点となる公共施設の充実や各種団体の育成支援なども重要な課題ではないかと考えている。

このように近未来を生きていく市民にとって教育の果たす役割は極めて重要であり、その範疇(はんちゆう)は大変幅広く深いものがある。

喫緊の課題としては、まず、学校教育の側面では、

- ・未来に生きて働く基礎・基本となる確かな学力の育成方策
- ・民間委託による部活動等の運営など地域と学校の連携・協働の方策
- ・GIGAスクールの一層の推進
- ・少子化に伴う学校の適正配置と未来を見据えた学校の在り方の検討
- ・コロナ禍で生じている不登校支援やいじめ対策等の生徒指導上の課題

など解決しなければならない問題や課題があげられる。

また、社会教育や生涯学習の側面では、

- ・ライフステージに応じた豊かな学びの実現
- ・少子化や高齢化に伴う各種団体の育成の在り方
- ・時代に即応した公民館活動や社会教育施設の在り方
- ・コロナ禍で生じた行事の立ち上げや新たなイベントの検討

などがあげられる。

今後の幸手市の教育行政の一層の充実を目指して、本日は委員の皆様の豊かな識見に基づき、忌憚のない御意見をいただき、今後の市政運営に生かしてまいりたい。

余談となるが、10月16日に西公民館で開催された幸手市児童生徒プレゼンテーション講座に参加したが、小学

生9人によるパワーポイントを使ったプレゼンテーションに非常に感動した。

そこで、11月11日に開催した市の若手職員による政策研究発表会の前に時間を設け、西中学校の3学年生徒にプレゼンテーションをしていただいたが、やはり感銘を受けた。

この講座を指導された大西先生がおっしゃっていたことに私も共感したが、人を育てる方法の一つとして、発表する側は当然、発表に向けた準備をするため成長するが、聴く側も上手に聴くことで成長するというのを感じた。市職員も、学生のプレゼンテーションを聴いて、新たな発見に出会えたかと思う。

学校教育では、先生と児童・生徒、あるいは学校と保護者やPTA、市役所で言えば、職員と市民との関係をどう構築していくかも重要だと思う。双方向からしっかりと物事を深掘していくことで、世の中の風景が変わっていくのではないかと感じた。

《意見交換》

藤沼委員

学校教育には、学校・家庭・地域の三つが関連するが、それぞれが大小様々な問題を抱えている。この問題を解決するため、教育委員会では毎年、幸手市教育行政重点施策を策定して様々な事業を執行しているが、改革を進めていくためには強いリーダーの存在が必要だと思う。

また、併せて改革に係わる人達の意識改革と、様々な格差の是正が必要だと考えている。

市長

私は、市長就任の際に述べた公約の一つで、市政全ての総点検を掲げ、これを実行してきたが、すぐに実現できた事業もあれば、長期に渡らないと実現できない事業もあり、全体としては市民の皆様が満足できる状況に、なかなか到達していないかと思う。

しかし私は、どんな小さなことでも、キラリと光る成果を積み重ねることができれば、職員の自信に繋がるし、市外の方からも幸手市に関心を持っていただけると考えている。

コロンブスの卵のように発想や発見を大事にしながら様々な事業を丁寧に実行していきたい。

岩崎委員

4点伺いたい。

1点目は、部活動の民間委託に向けた現在の進捗状況を伺う。

2点目は、障がいを持つ乳幼児への子育て支援と、吉田幼稚園廃止による園児の受け入れ状況について伺う。

3点目は、インターネットへ接続できる環境が家庭にない子ども達が、休日や放課後に公共施設でWi-Fiを使用できる環境を整備する予定があるのか伺う。

4点目は、教育委員会の所管から外れてしまうが、旧吉田幼稚園の跡地利用の進捗状況について伺う。

学校教育課長

1点目の部活動の民間委託に向けた現在の進捗状況については、以前の教育委員会定例会でも少し話題に上がり、現状の報告をしたが、スポーツ庁から令和7年度までの段階的な移行を求められていることから、少しずつ準備を進めているところである。

政策課長

2点目の子育て支援については、ウェルス幸手の施設内に総合窓口を設置し、健康増進課とこども支援課の職員が幼少期から相談に乗ることで、切れ目のない子育て支援を行っている。

その中で、旧吉田幼稚園に通園していた子ども達を含む障がいを持つ乳幼児の受け入れについては、障がいの度合いによって若干対応は異なるものの、適宜相談に乗りながら、例えば障がい児クラスがある市立第3保育所での受け入れや、他の施設を探すといった対応を行っているかと思う。

社会教育課長

3点目の公共施設へのWi-Fi環境の整備については、来年1月から各公民館に来館された方が使えるフリーWi-Fiの設置の準備を現在、進めている。

また、指定管理者が管理する図書館についても、若干の遅れはあるが、同様に設置に向けた準備を進めている。

政策課長

4点目の旧吉田幼稚園の跡地利用の進捗状況だが、政策課が事務局のプロジェクトチームを立ち上げ、これまでに4回の会議を開催し、跡地利用に係る規制の情報共

有や、活用方法の検討を行っている。

なお現在、スポット的な貸し出しも行っているところである。

市長

補足だが、旧吉田幼稚園の貸出については、地元のグラウンドゴルフクラブから貸出の御要望をいただき、除草や防犯パトロールを含めて御活用いただいている。

それから、公立幼稚園の存続が私の思いであり、現在、教育審議会で学校の在り方の検討の延長上として、公立幼稚園の在り方についても検討していただいていると考えている。

高島委員

先ほど、市長から話があった「未来を担う子ども達が健やかに成長し、世界中どこでも飛躍できる人材の育成」について、元英語教員の視点から英語教育に関する具体的な方策として、A L T（外国語指導教員）の増員を提案したい。

本市は、数学と英語の学力に少し課題があるため、過去に山西教育長から依頼を受けて、市内中学校の英語の授業を視察したことがあった。授業後に「授業で多くの英語に触れられたか」というアンケートを生徒に行ったところ、多くの生徒が触れられた時間が少ないと感じていた。

国の調査等では、英語の学力が高い地域では、英語活動の時間に教師が英語を使用する時間が多い、小学校との連携が図られている、資格検定試験の受験率が高いという特徴が見られた。

本市のA L Tの人数では、中学校で週4時間の英語の授業のうち、1時間しかA L Tとのチームティーチングができていないかと思う。

子ども達にもっと英語に興味を持たせ、確かな学力を身に付けさせるためには、教師の指導方法の改善と、A L Tの増員により子ども達がより多くの英語に触れられる機会を増やすことが必要だと思う。

学校教育課長

A L Tは現在、J E Tプログラム3人、民間派遣5人の計8人を配置している。

小学校は、英語の時間数が少ないので、多くの授業にA L Tを入れることが可能だが、高島委員がおっしゃると

おり、中学校では全ての授業にALTを入れられない状況である。

市長

これからの社会は、日本語と同じように英語を自由に使いこなしていく時代だと思う。そのためには、稚拙であっても自分で話して、生の英語を聴くことが大事だと思う。

例えば、学校代表の児童・生徒が、海外に語学留学するような制度はあるのか。

高島委員

私が以前、旧菖蒲町（現久喜市）の菖蒲中学校に勤務していた時に、菖蒲町では海外姉妹校と交換留学を実施していた。

現在、本市にはそういった取組はないが、やはり多くの英語に触れる機会は授業の中にあるべきだと思う。

社会で生きていくためにはコミュニケーション能力が必要である。英語の授業を通してコミュニケーション能力が養われ、しいては日本語のコミュニケーション能力の向上にも繋がり、学力が向上すると考えている。

藤沼委員

私は以前、グローバル企業に勤めていたので、仕事柄、英会話を求められる機会があったが、あまり得意な方では無かった。

しかし、必要な単語を暗記し、ジェスチャーを交えながら会話をすることで、コミュニケーションを取ることができた。

流暢な英語が話せなくても、基礎的な英語力と勇気があれば、コミュニケーションが取れると思う。

古沢委員

新型コロナウイルス感染症が若干の終息傾向にある中、令和3年度の全国学力テストのアンケートで、「学校に行くのが楽しい」と回答した割合が、前回より6ポイント減少していたが、令和4年度は、回復傾向にあるとの報道を見た。

また、給食の黙食を求められていた子ども達が、会話の解禁により、楽しそうに食事をしている姿を映した報道を見た。

学校行事も再開されつつあり、日々の学校生活の積み

重ねや様々な行事を通して、子ども達がすくすくと成長しているのを保護者として実感している。

先日も市内の音楽会も拝見したが、コロナ禍で楽器演奏が制限されていた地域の子子ども達が、3年ぶりに大舞台で演奏するという事で、凄く大変だったと思うが、基礎もしっかりしていたし、音楽的な表現も子ども達の生き生きとした表情から感じ取ることができた。

子ども達の適応能力の高さに感心するとともに、コロナ禍でも学びを止めない先生方の工夫と努力に感謝の気持ちを感じた。

心の安定が、子どもや保護者、先生との関係に大きく影響すると思うので、子どもや保護者、先生の心のケアを大事にしていただけるとありがたい。

学校教育課長

子ども達については、登校時の子どもの表情から心の状態を感じ取ったり、相談員を配置して心のケアに努めたりしている。

また、様々な行事等を通じて、子どもが学校に自分の存在感を感じられるよう、校長会や教頭会等を通じてお願いしているところである。

市長

国や県が心のケアを支援する体制はあるのか。

学校教育課長

県から臨床心理士の資格を持つスクールカウンセラーが学校に派遣され、子どもや保護者の相談に乗っていただくとともに、場合によっては教員の相談に乗っていただいている。

さらに県から1人、スクールソーシャルワーカーが派遣されており、不登校など家庭的に課題を抱える家庭を教員と一緒に訪問して、相談に乗っていただいている。

会田職務代理者

これから、来年度予算の編成時期になるかと思うので、3点お願いしたい。

1点目は、先程、部活動の民間委託の話があったが、徐々に移行していくにしても指導者への謝金や保険料など、予算措置が必要になるかと思うので、その辺の配慮をお願いしたい。

2点目は、公共施設の老朽化問題があるが、学校では、

例えば体育館の雨漏りや、プールの水漏れなどの話を聞く。

また、公民館では、エアコンや水洗トイレの故障の話を聞くので、修繕に必要なある程度まとまった予算の充実をお願いしたい。

3点目は、コロナ禍でタブレット端末を活用したりリモート授業を実施しているかと思うが、他の自治体の事例で報道があったように、タブレット端末は使えば壊れるので、修理するための修繕費と、より一層のWi-Fi環境の充実に必要な費用の予算措置をお願いしたい。

最後に質問だが、現在、学校の在り方について、教育審議会で検討されているが、今後、人口減少が進んだ小規模自治体としての在り方を検討するのか、それとも、人口を増やすための新たな施策を立てて在り方を検討するのか、その方向性によって在り方が変わってくると思う。

その辺についての市長の考えを伺う。

市長

今後の先行きは不透明だが、不透明なりにもある程度の方針を市民にお示しする責務があると思っている。選択肢は複数あるかもしれないが、市の大まかな方針をお示しし、市民と共に考えていきたい。

予算措置については、限られた財源の中でもプライオリティを明確にしながら、メリハリを付けて実行していく必要があると考えている。

明確にこの事業を実施するとは申し上げられないが、教育には力点を置く必要があると考えているので、必要な施策をタイムリーに取り組んでまいりたい。

教育部長

これまでの御意見等を踏まえて、教育長から御意見をいただきたい。

教育長

市長を中心に、総合政策部長と政策課長、政策課職員にも参集いただいた中、今後のまちづくりを含めた教育の在り方について、忌憚のない御意見をいただき感謝する。

本日いただき御意見等を踏まえながら、今後も市長部局と連携し、市長と共に教育行政を進めてまいりたい。

教育部長

市長から総括をお願いする。

<p>日程第2 その他</p> <p>閉 会 午前 10 時 02 分</p>	<p>市長</p> <p>先程も申し上げたように、明確に方針を出していくことが私の責務だと考えているので、胆に銘じて取り組んでまいりたい。</p> <p>今後も引き続き、御意見、御指導を賜りたい。</p> <p>なし</p> <p>教育部長 閉会を宣す。</p>
--	---

<p>他特に重要 と認める事項</p>	<p>なし</p>
	<p>上記会議の顛末を記載し相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p style="text-align: right;">令和4年12月20日</p> <p style="text-align: center;">教育委員 藤沼寛次</p> <p style="text-align: center;">教育委員 古沢万友実</p>